

令和元年度小・中学校各教科等担当指導主事連絡協議会 報告書

教科・領域	図画工作・美術		愛知県教育委員会
月日・曜	小：6月19日(水) 中：6月20日(木)	会場名	国立オリンピック記念青少年総合センター

<小学校> 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 岡田 京子

1 図画工作科の目標について  
教科の目標（柱書について）

表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を育成することを目指す。

2 表現及び鑑賞の活動を通して育成される資質・能力の三つの柱

三つの柱	図画工作科の目標	内容
(1) 知識 技能	対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解するとともに、	[共通事項] (1) ア
	材料や用具を使い、 <u>表し方などを工夫して、創造的につくり表したりすることができるようにする。</u>	「A表現」 (2) ア・イ
(2) 思考力、判断力、表現力等	<u>造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をしたり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。</u>	「A表現」 (1) ア・イ 「B鑑賞」 (1) ア [共通事項] (1) イ
(3) 学びに向かう力、人間性等	つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培う。	全体

3 図画工作科の「内容のまとめりごとの評価規準」の作成について

- (1) 図画工作科の内容のまとめり
- ・造形遊び……「A表現」(1) ア、(2) ア、[共通事項] (1) ア、イ
  - ・絵や立体、工作…「A表現」(1) イ、(2) イ、[共通事項] (1) ア、イ
  - ・鑑賞…「B鑑賞」(1) ア、[共通事項] (1) ア、イ
- (2) 「内容のまとめり」と「評価の観点」との関係の確認（例：低学年：造形遊び）

「A表現」

(1) 表現の活動を通して、発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。  
ア 造形遊びをする活動を通して、身近な自然物や人工の材料の形や色などを基に造形的な活動を思いつくことや、感覚や気持ちを生かしながら、どのように活動するかについて考えること。

「A表現」

(2) 表現の活動を通して、技能に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。  
ア 造形遊びをする活動を通して、身近で扱いやすい材料や用具に十分に慣れるとともに、並べたり、つないだり、積んだりするなど手や体全体の感覚などを働かせ、活動を工夫してつくること。

[共通事項]

(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。  
ア 自分の感覚や行為を通して、形や色などに気付くこと。  
イ 形や色などを基に、自分のイメージをもつこと。

下線…「知識・技能」のうち「知識」に関する内容  
 二重下線…「知識・技能」のうち「技能」に関する内容  
 波線…「思考力、判断力、表現力等」に関する内容

(3) 観点ごとのポイントを踏まえた「内容のまとまりごとの評価規準」の作成について  
(例：低学年「造形遊び」)

- ① 「知識・技能」のポイント
  - ・ 「知識」…〔共通事項〕(1)アから作成する。文末を、学習の状況の評価することを踏まえて「～している」とする。
  - ・ 「技能」…「A表現」(2)アから作成する。文頭の「造形遊びをする活動を通して」は、内容のまとまりを示すものなので削除する。文末は、学習の状況の評価することを踏まえて「～している」とする。
- ② 「思考・判断・表現」のポイント
  - ・ 「思考・判断・表現」は「A表現」(1)ア、〔共通事項〕(1)イから作成する。〔共通事項〕(1)イに続けて「A表現」(1)アを示し、「自分のイメージをもつ」を「自分のイメージをもちながら」とする。
  - ・ 文頭の「造形遊びをする活動を通して」は、内容のまとまりを示すものなので削除する。
  - ・ 「A表現」(1)アの「造形的な活動を思いつくことや」を「造形的な活動を思いつき」とする。
  - ・ 文末は、学習の状況の評価することを踏まえて「～している」とする。
- ③ 「主体的に学習に取り組む態度」のポイント
  - ・ 「主体的に学習に取り組む態度」は、当該学年の「観点の趣旨」を踏まえて作成する。
  - ・ 「表現したり鑑賞したりする学習活動」を「表現する学習活動」とする。

観点別学習状況の評価を通じて見取ることができる部分と、観点別学習状況の評価や評定にはなじまない部分がある。感性や思いやりなどのなじまない部分は、個人内評価を通じて見取部分があることに留意する。低学年の「学びに向かう人間性」の目標は「楽しく表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しい生活を創造しようとする態度を養う」である。このような態度は感性を育むところにつながり、創造は豊かな情操を培うことにつながる。よって、個人内評価をする。一方、つくりだす喜びを味わい、楽しく活動に取り組もうとしているかどうかを観点別評価で見取ることとする。

(例) 造形遊び (低学年)

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容のまとまりごとの評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の感覚や行為を通して、形や色などに気付いている。</li> <li>・ 身近で扱いやすい材料や用具に十分に慣れるとともに、並べたり、つないだり、積んだりするなど手や体全体の感覚を働かせ、活動を工夫してつくっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 形や色などを基に、自分のイメージをもちながら、身近な自然物や人工の材料の形や色などを基に造形的な活動を思い付き、感覚や気持ちを生かしながら、どのように活動するかについて考えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ つくりだす喜びを味わい楽しく表現する学習活動に取り組もうとしている。</li> <li>・ ※学年別の評価の観点の趣旨のうち「主体的に学習に取り組む態度」に関わる部分を用いて作成する。</li> </ul>

(4) 題材の評価規準の作成のポイント

- ① 「知識・技能」のポイント
  - ・ 「知識」については、全ての題材において、低学年の「形や色など」、中学年の「形や色などの感じ」、高学年の「形や色などの造形的な特徴」については、指導計画の作成と内容の取扱い2(3)「〔共通事項〕のアの指導」を参考にして、題材に即して具体的に示すことが考えられる。
  - ・ 「自分の感覚や行為を通して」については、題材に即して具体的に示すことが考えられる。
  - ・ 「技能」については、全ての題材において、全学年の「材用や用具」、中学年、高学年の「前学年までの材料や用具」については、指導計画の作成と内容の取扱い2(6)「材料や用具」を参考にして、題材に即して具体的に示すことが考えられる。
- ② 「思考・判断・表現」のポイント
  - ・ 全ての題材において、低学年の「形や色など」、中学年の「形や色などの感じ」、高学年の「形や色

などの造形的な特徴」については、指導計画の作成と内容の取扱い2（3）「〔共通事項〕のアの指導」を参考にして、題材に即して具体的に示すことが考えられる。

- ・ 造形遊びをする活動における、低学年の「身近な自然物や人工の材料の形や色など」、中学年の「身近な材料や場所など」、高学年の「材料や場所、空間などの特徴」については、指導計画の作成と内容の取扱い2（6）「材料や用具」を参考にして、題材に即して具体的に示すことが考えられる。
- ・ 絵や立体、工作に表す活動における、低学年の「感じたこと、想像したこと」、中学年の「感じたこと、想像したこと、見たこと」、高学年の「感じたこと、想像したこと、見たこと、伝え合いたいこと」については、題材に即して選択する。さらに、具体的に示すことも考えられる。
- ・ 鑑賞する活動における、低学年の「自分たちの作品や身近な材料など」、中学年の「自分たちの作品や身近な美術作品、製作の過程など」、高学年の「自分たちの作品、我が国や諸外国の親しみのある美術作品、生活の中の造形など」は、題材に即して選択する。さらに、具体的に示すことが考えられる。

③ 「主体的に学習に取り組む態度」のポイント

- ・ 題材に即して、「表現する学習活動」や「鑑賞する学習活動」を具体的に示すことが考えられる。

<中学校>

文部科学省初等中等教育局教育課程課視学官 東良 雅人

1 美術科の目標について

教科の目標（柱書について）

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

2 表現及び鑑賞の活動を通して育成される資質・能力の三つの柱

三つの柱		美術科の目標	内容
(1)	知識	対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、	〔共通事項〕(1)ア・イ
	技能	表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。	「A表現」(2)ア
(2)	思考力、判断力、表現力等	造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、	「A表現」(1)ア・イ 「B鑑賞」(1)ア・イ
		主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、	「A表現」(1)ア・イ
		美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	「B鑑賞」(1)ア・イ
(3)	学びに向かう力、人間性等	美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。	全体

3 美術科の「内容のまとめりとごとの評価規準」の作成について

(1) 美術科の内容のまとめり

- ・ 感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現  
…「A表現」(1)ア(2)、〔共通事項〕(1)ア・イ
- ・ 目的や機能などを考えた表現…「A表現」(1)イ(2)、〔共通事項〕(1)ア・イ
- ・ 作品や美術文化などの鑑賞 …「B鑑賞」〔共通事項〕(1)ア・イ

※ 中学校美術科の評価の観点において「知識・技能」は、「造形的な視点を豊かにするための知識」と創造的に表す技能」とに整理していることから二つに分けて示している。また、「思考・判断・表現」は「A表現」において育成する発想や構想に関する能力と「B鑑賞」において育成する鑑賞に関する資質・能力とに整理しているが、発想や構想と鑑賞の双方に重なる資質・能力の育成を重視していることからまとめている。

(2) 「内容のまとめ」と「評価の観点」との関係の確認 (例「感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現」)

- 「A表現」(1) 表現の活動を通して、次のとおり発想や構想に関する資質・能力を育成する。
- ア 感じ取ったことや考えたことなどを基に、絵や彫刻などに表現する活動を通して、発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
    - (ア) 対象や事象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出し、全体と部分との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ること。
- 「A表現」(2) 表現の活動を通して、次のとおり技能に関する資質・能力を育成する。
- ア 発想や構想をしたことなどを基に、表現する活動を通して、技能に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
    - (ア) 材料や用具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表すこと。
    - (イ) 材料や用具の特性などから制作の順序などを考えながら、見通しをもって表すこと。
- 〔共通事項〕(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 形や色、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解すること。
  - イ 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること。
    - 下線…「知識・技能」のうち「知識」に関する内容
    - 二重下線…「知識・技能」のうち「技能」に関する内容
    - 波線…「思考力、判断力、表現力等」に関する内容

(3) 観点ごとのポイントを踏まえた「内容のまとめ」と「評価の観点」との関係の確認 (例：1年「感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現」)

① 「知識・技能」のポイント

- ・ 「知識」は〔共通事項〕(1)アから作成する。
- ・ 文末は、学習の状況の評価することを踏まえて「～理解している」とする。
- ・ 「2 内容の取扱いと指導上の配慮事項」の〔共通事項〕の取扱いにおいて、知識は単に新たな事柄として知ることや言葉を暗記することに終始するものではないことを示している。そのため、〔共通事項〕の各指導事項に示されている「理解すること」とは、生徒一人一人の造形的な視点を豊かにするために、形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果及び全体のイメージや作風などで捉えるということであり、実感的に理解することが大切である。
- ・ 「技能」はA「表現」(2)ア(ア)(イ)から作成する。
- ・ 文末は学習の状況の評価することを踏まえて「～表している」とする。

② 「思考・判断・表現」のポイント

- ・ 「思考・判断・表現」は「A表現」(1)及び「B鑑賞」から作成する。
- ・ 文末は、学習の状況の評価することを踏まえて「～している」とする。
- ・ 発想や構想と鑑賞の双方に重なる資質・能力として、「造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考える」ことなどについて留意しながら作成することになる。

③ 「主体的に学習に取り組む態度」のポイント

「主体的に学習に取り組む態度」については、評価の観点及びその趣旨を「美術の創造活動の喜びを味わい楽しく表現及び鑑賞の幅広い学習活動に取り組もうとしている」としており、題材において設定した「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」の資質・能力を、生徒が学習活動の中で楽しく身に付けようとしたり、発揮しようとしたりすることへ向かう態度を評価することになる。ここでは、第1学年の「感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現」の内容のまとめを例にしているので、当該学年の観点の趣旨と「A表現」の「内容のまとめ」に応じて評価規準を作成することができる。また、「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準は各領域の内容のまとめごとの全体におけるものとして示されていることから、必要に応じて学年別の観点の趣旨(主体的に学習に取り組む態度)の関連や、同じ「内容のまとめ」と「評価の観点」(例)の「知識・技能」「思考・判断・表現」と対応させて「～しようとしている」等で示すことで、より具体的な「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準を作成することも考えられる。